

『県外からの問い合わせ急増しています。』

## 4月15日（日）栗林公園の結婚式について

※お二人の個人情報をプレスに公開することは了承を得ています。

### ■結婚する二人について

新郎：31歳

香川県寒川町出身 東京都在住 両親は寒川町に在住。  
大学入学時に上京し、卒業後も都内で就職、現在に至る。

新婦：27歳

東京都出身 東京都在住 両親も都内に在住。  
生まれも育ちも東京都、都内の実家で暮らす。  
両親は九州の出身だが、本人は東京生まれということもあり、  
【ふるさと】という感覚はあまりない。



### ■結婚式にお二人の希望

新郎は長男。大学入学時をきっかけに上京し、就職も都内で。仕事の都合もあり現在のところ、実家に戻り跡取りをするつもりはない。両親もそのことは理解しているが、「長男だし、せめて結婚式くらいは地元で挙げてほしい」と。また香川県の婚礼風習『同行（どうぎょう）』も地元で行ってほしいと。

新婦は東京生まれの東京育ち。当初、ゆかりのない新郎の故郷で結婚式を挙げることに抵抗があった。新婦は、都内のおしゃれなレストランなどでカジュアルなウェディングを希望していた。

新郎の両親の顔を立て、乗り気ではない香川での結婚式は、親族ばかりの少人数で和風スタイルにこだわることに、自分の夢であるおしゃれなレストランウェディングは、友人を中心に都内で挙げる、といった2部式スタイルを選択した。

当社社長 藤田よりこのように説明をした。

「東京都内のレストランウェディングは誰でもできるもの。

**香川県出身の彼と、香川県で結婚式を挙げるならば、『香川県』にこだわってみてはどうか？ 場所性も、引き出物やお料理などおもてなしアイテムも、儀式や風習も。**

東京出身の彼女にとっては、【ふるさと】という意識はあまりないかもしれないが、結婚する相手のルーツを探ることは、これからの二人のアイデンティティの創出にもつながる。

二人が出会い、結婚することは、(大げさな表現かもしれないが)人々の長い歴史の1ページを刻むことであり、単なるイベントではない。

また東京からの両親、九州からの親族にとっても、結婚式でたまたま訪れる土地で、その土地の風土を体感することは、小旅行以上に楽しんでもらえるのではないかと。

桜の咲く季節の【栗林公園】の結婚式をお勧めしたい。」



## ■プランニングの経過



### 1. 栗林公園を知る

栗林公園での結婚式を挙げるからには、**栗林公園の歴史や、芸術的な趣向**などを理解していただきたいと思いました。

そこで、栗林公園の所長に園内をご紹介してもらいました。

二人が栗林公園の歴史や、芸術的な趣向などを理解していただくことで、**【ふるさと讃岐の結婚式】**の価値を深めていただきたいと思ったのです。

### 2. 披露宴会場を選ぶ

栗林公園の結婚式では、**【掬月亭】**を挙式会場として利用することになります。披露宴会場として利用不可ではないのですが、**【掬月亭】**では、飲酒が行えない規則になっているため披露宴会場としては利用しにくいのです。

そこで、披露宴会場の選定にあたっては**【ふるさと讃岐の結婚式】**のテーマ(ロケーション・料理内容など)に沿っていることをポイントにしました。今回は栗林公園内にある**【茶店 花園亭】**を披露宴会場に選びました。



### 3. 【ふるさと讃岐の結婚式】の風習でおもてなし

婚礼料理には、瀬戸内の季節の味である「鱈」や「飯蛸」、「讃岐コーチン」など**地産地消食材**にこだわって、献立作成をしました。

引き出物にも、和三盆糖をつかった引菓子など、香川県ならではの品々を選びました。

また、新郎のご近所に新婦の仲間入りを請う**讃岐の婚礼風習「同行（どうぎょう）」**も簡略式ですが、行うことになりました。

当社では、ふるさとで結婚式を挙げたいというカップルのニーズが、潜在的に多分に存在すること想定し、数年前からインターネットなどを通じて訴えてきました。

特に昨年の東日本大震災以降は、県外からのカップルの問い合わせが急増し、その成果が目に見えて現れてきました。改めて地元への執着を示され、親族や古くから付き合いのある人たちとの絆を深めるために、ふるさとでの結婚式を挙げることを希望されています。

結婚式の打ち合わせや準備のための帰郷に交通費や時間的な負担などを押しても、敢えて**【ふるさと讃岐の結婚式】**を選ばれるのは、未婚化・晩婚化など結婚するカップルを取り巻く環境や社会的背景も多分に影響していると言えます。

(※昨今の結婚事情については、別紙参考資料③参照)